

第50期 中間株主通信

平成22年4月1日から平成22年9月30日

TAKAMIZ

高松機械工業株式会社

[証券コード6155]

株主の皆様へ



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご支援、ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、当社は平成22年9月30日をもって第50期第2四半期
(平成22年4月1日から平成22年9月30日)を終了いたしましたので、
ここに営業の概況ならびに第2四半期決算の状況についてご報告申し上げます。

代表取締役社長 高松 喜寿志

当第2四半期の市場動向 および成果

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、止まらない円高やデフレ圧力、海外景気の減速懸念などの不安要素から先行きの不透明感が払拭されないままであったものの、中国やインドなど新興国の経済成長による輸出の増加や経済政策の効果で企業収益や業況判断が改善し、緩やかな回復を続けてきました。

工作機械業界におきましては、外需の回復が堅調で需要をけん引し、日本工作機械工業会の単月受注額は平成22年9月に2年ぶりとなる900億円超えとなっており、10ヶ月連続で前年同月比を上回っております。平成22年4～9月期総額では前年同期約2.5倍となる5,072億円となり、回復基調にありました。

当社グループにおきましても、拡大する外需への対応を強化してきました。特にアジアに対しましては、中国市場の拡大のために販売

子会社の設立準備を進めてきたほか、需要が高いタイではプライベート・ショーを開催するなど積極的な営業を展開してきました。

また内需におきましても、エコカー減税・補助金の影響もあって生産を増加させてきた自動車業界に対し、得意とする自動化システムやユーザーニーズに応える新製品などをもってユーザーに最適な生産方法を提案することで受注確保に努めてきました。

本社工場では生産能力の増強として、既存設備の約1.5倍の加工能力を持つ大型の門型ベッド研削盤を導入し、稼働を開始しています。

以上のような活動を行ってきた結果、工作機械需要が回復基調にある中で堅調に受注を増加させることができ、当第2四半期の工作機械受注高が42億70百万円(前年同期比281.0%増)、売上高が47億57百万円(前年同期比219.8%増)の増収となりました。

売上高の増加によって当初計画よりも損失幅を縮小しましたが、ユーザー企業では先行き

の不透明感がまだ強く、いまだ本格的な需要回復に転じていないことから、営業損失が2億100万円(前年同期は12億100万円の営業損失)、経常損失が1億840万円(前年同期は10億660万円の経常損失)、四半期純利益が200万円(前年同期は6億690万円の四半期純損失)となりました。

■ 今後の見通し

日本経済の先行きは、緩やかに回復してきているものの、高止まりする円相場や政府支援策の終了などを受けて、企業の警戒感が弱まることなく、依然として不透明感が残っています。

工作機械業界におきましては、内需では円高の影響によって自動車業界などの設備投資が伸び悩むと見られる一方、外需では中国を中心とした海外の需要が底堅く推移するものと見込まれ、回復局面が継続するものと想定されます。

このような状況の中で当社グループは、堅調に需要回復を続ける外需を取り込むためにも、引き続き海外市場の拡大をはかっていきます。中国では、販売子会社の早期設立をはかり、営業活動を開始させるほか、杭州友嘉高松機械有限公司と連携して市場拡大に努めます。タイでは11月開催の展示会「METALEX2010」での需要を軸に更に受注を増やしていきます。また、欧米でも需要に動きが始めているので、イタリアでは新たに代理店契約を締結したディーラとの協力関係を高めていくことで販売を増やして

いくほか、ブラジルなどのその他地域におきましても、ニーズを捉えた営業を推進していきます。

国内では、11月に東京で開催の展示会「JIMTOF2010」における引合を受注につなげていくほか、新製品「XL-100」や「X-S700」「XC-100」を積極的にプレゼンし、ユーザーニーズに応じていきます。

需要回復期には価格競争が見込まれますので、コスト削減に向けてより効率的な生産の実施や最適調達などの収益改善策を進めます。

IT関連製造装置事業では、半導体関連が堅調でありますので、適切な生産を行っていくことで売上高を確保し、利益につなげていきます。

自動車部品加工事業では、引き続き積極的に営業活動を行い、新規受注の獲得をはかっていきます。

上記のように当社グループが取り組んでいくこと、および第2四半期累計期間の業績から、通期の売上高・利益額が当初予想よりも改善される見通しであります。そこで平成22年度連結業績予想を売上高106億680万円、営業損失660万円、経常損失230万円、当期純利益3億円に修正しました。

当社グループは、目標の達成に向けて全社一丸となって取り組んでいく所存でありますので、今後より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

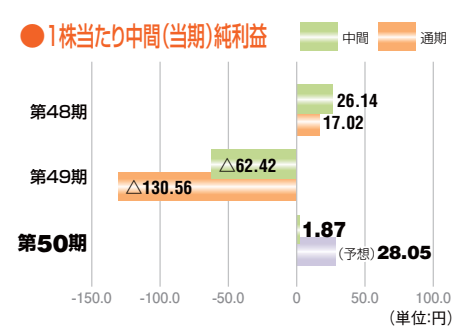
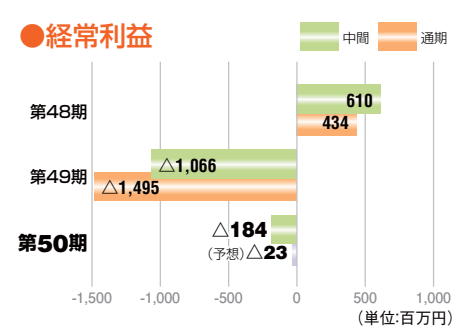
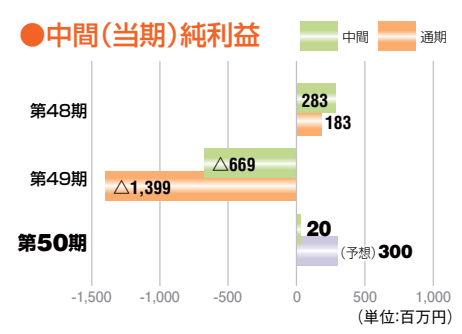
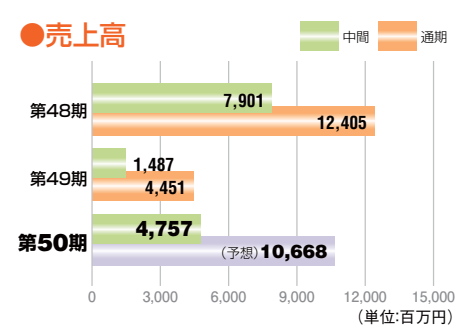
業績の推移

連結業績ハイライト

科目	第48期 (平成20年度)	第49期 (平成21年度)	第49期中間期 (平成21年度)	第50期中間期 (平成22年度)
売上高 (百万円)	12,405	4,451	1,487	4,757
営業利益又は営業損失(△) (百万円)	382	△ 1,737	△ 1,201	△ 210
経常利益又は経常損失(△) (百万円)	434	△ 1,495	△ 1,066	△ 184
中間(当期)純利益 又は中間(当期)純損失(△) (百万円)	183	△ 1,399	△ 669	20
純資産額 (百万円)	9,234	7,849	8,573	7,845
総資産額 (百万円)	12,670	11,339	11,087	12,377
1株当たり中間(当期)純利益 又は中間(当期)純損失(△) (円)	17.02	△ 130.56	△ 62.42	1.87
1株当たり純資産額 (円)	857.72	727.22	795.36	726.51

(注) 1 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2 四半期開示制度に伴う会計基準の変更がありますが、従来の中間期という表現で掲載しております。



中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当中間期 (平成22年9月30日)	前期 (平成22年3月31日)	科目	当中間期 (平成22年9月30日)	前期 (平成22年3月31日)
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	7,365	6,513	流動負債	3,788	2,760
現金及び預金	2,034	2,983	支払手形及び買掛金	2,521	1,581
受取手形及び売掛金	3,418	1,709	短期借入金	930	930
商品及び製品	277	247	未払法人税等	13	6
仕掛品	821	688	賞与引当金	128	85
原材料及び貯蔵品	603	565	役員賞与引当金	10	—
その他	213	320	製品保証引当金	16	9
貸倒引当金	△ 3	△ 1	その他	168	147
固定資産	5,011	4,825	固定負債	743	729
有形固定資産	3,852	3,834	退職給付引当金	488	486
建物及び構築物(純額)	1,063	1,098	役員退職慰労引当金	246	241
土地	1,379	1,379	その他	9	0
その他(純額)	1,410	1,356	負債合計	4,531	3,489
無形固定資産	37	43	(純資産の部)		
投資その他の資産	1,121	947	株主資本	7,772	7,752
その他	1,122	948	資本金	1,835	1,835
貸倒引当金	△ 0	△ 0	資本剰余金	1,833	1,833
資産合計	12,377	11,339	利益剰余金	4,225	4,205
			自己株式	△ 121	△ 121
			評価・換算差額等	14	41
			その他有価証券評価差額金	38	56
			繰延ヘッジ損益	△ 0	—
			為替換算調整勘定	△ 23	△ 14
			新株予約権	59	54
			少数株主持分	0	0
			純資産合計	7,845	7,849
			負債純資産合計	12,377	11,339

(注) 1 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2 四半期開示制度に伴う会計基準の変更がありますが、従来の中間期という表現で掲載しております。

中間連結財務諸表

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前中間期	当中間期
	(自 平成21年4月 1日 至 平成21年9月30日)	(自 平成22年4月 1日 至 平成22年9月30日)
売上高	1,487	4,757
売上原価	1,779	3,868
売上総利益又は売上総損失(△)	△ 291	889
販売費及び一般管理費	910	1,099
営業損失(△)	△ 1,201	△ 210
営業外収益	143	34
営業外費用	7	9
経常損失(△)	△ 1,066	△ 184
特別利益	15	—
特別損失	0	0
税金等調整前中間純損失(△)	△ 1,051	△ 184
法人税、住民税及び事業税	5	6
法人税等調整額	△ 387	△ 211
少数株主損益調整前中間純利益	—	20
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 0	0
中間純利益又は中間純損失(△)	△ 669	20

(注) 1 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2 四半期開示制度に伴う会計基準の変更がありますが、従来の中間期という表現で掲載しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前中間期	当中間期
	(自 平成21年4月 1日 至 平成21年9月30日)	(自 平成22年4月 1日 至 平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	71	△ 741
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,306	542
財務活動によるキャッシュ・フロー	419	△ 0
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	△ 5
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 809	△ 205
現金及び現金同等物の期首残高	1,715	895
現金及び現金同等物の中間期末残高	906	690

(注) 1 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2 四半期開示制度に伴う会計基準の変更がありますが、従来の中間期という表現で掲載しております。



IMTS2010



JIMTOF2010

世界4大工作機械見本市

世界4大工作機械見本市といわれておりますシカゴの「IMTS2010」(9/13~18)と、東京の「JIMTOF2010」(10/28~11/2)に、新製品を含め多数展示しました。

シカゴでは当社のブースに約700社もの訪問者が来られ、「X-S700」の高精度・高効率切削加工や、「XC-100」の作業性を重視した設計に高い評価をいただくことができました。

東京では当社の主力機であります「XC-100」の省スペース・省エネルギーの特性を生かしつつ、複合加工で更に幅広いニーズに対応できる新製品「XL-100」に注目が集まりました。

タイ、ドイツでのプライベート・ショー

子会社でありますタカマツタイランド、タカマツヨーロッパでそれぞれ8月、9月にプライベート・ショーを開催しました。

タイを中心にインドネシア、ベトナムでは自動車、オートバイの需要が拡大しており、当社も需要の取り込みを強めるために、タイ工場では日系ディーラーを中心に当社製品の紹介を行いました。

ドイツでは欧州地区のディーラー・販売店を対象に、欧州で新たに販売します3機種の説明会や機械展示で当社製品をPRしました。期間中に受注もいただき、秋の商戦を良いスタートで迎えることができました。

海外市場では、今まで以上に幅広いラインナップとエンドユーザからの要望に応えることで、更なる販売拡大を目指します。



タイ 会場風景



ドイツ 説明会風景

職場紹介

(コレットチャック事業)



コレットチャック事業は、本社から車で数分の第2工場で行われており、男性15名、女性2名の合計17名が元気に仕事に励んでいます。工作機械事業との業務連携をスムーズに行いながら、工作機械の部品の一部であるコレットチャックを製造・販売しています。

コレットチャックとは、工作機械でワーク(加工物)を削る際に使用する筒状の部品で、その中心から放射線状に切り込みを入れたものにワークを差し込み、基本的には、外側から固定して工作機械に取り付けます。コレットチャックは広い面でワークを固定するため、ワークにキズがつきにくく、かつ強い力で締め付けることができます。イメージとしては、



シャープペンシルの芯を挟む部品とよく似ています。シャープペンシルの芯はふつう、丸い棒状ですが、もしそれが三角形や四角形なら、芯を挟む部品も変わってきます。コレットチャックもそれと同様で、ワークによって、適した形のものが必要になります。

第2工場では受注から設計、製造、販売まで一貫したシステムを構築していることで、標準品よりもオーダーメイドが多く、全体の7割を占めています。お客様の要望に的確にスピーディーにお応えすることをモットーとしており、1点1点、品質に自信とこだわりをもって製造しています。従業員たちは日々技術向上や資格取得に励んでおり、ベテラン社員による若手社員への技能継承も行いながら、抜群のチームワークを発揮しています。その評価から、今では2,200社を超えるたくさんのお客様の信頼を得ています。コレットチャック事業は、影ながら高松機械の品質を支える重要な存在なのです。

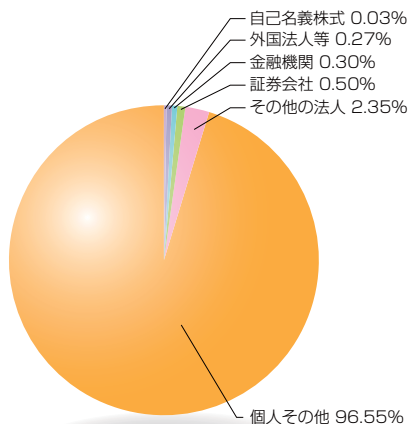


株式の状況 (平成22年9月30日現在)

株式の状況

- ①発行可能株式総数……………30,000,000株
- ②発行済株式総数……………11,020,000株
- ③1単元の株式数……………100株
- ④株主数……………2,981名

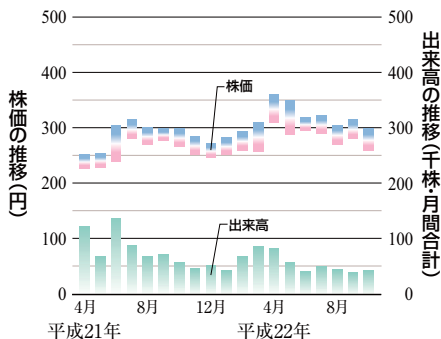
所有者別分布状況



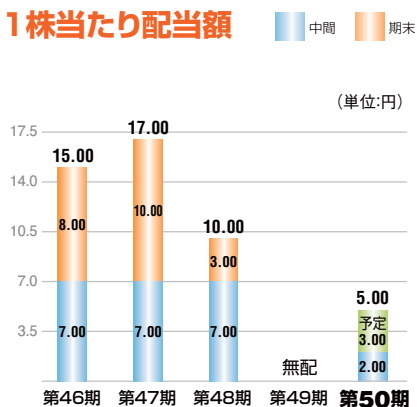
大株主

株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(千株)	持株比率(%)
高松機械工業取引先持株会	656	5.95
株式会社タカマツ	600	5.44
高松喜与志	517	4.69
日本生命保険相互会社	480	4.36
高松機械工業社員持株会	438	3.97
北国総合リース株式会社	433	3.93
株式会社北国銀行	408	3.70
三井住友海上火災保険株式会社	408	3.70
明治安田生命保険相互会社	360	3.27
高松明毅	332	3.02

株価インフォメーション



1株当たり配当額



会社の概要 (平成22年9月30日現在)

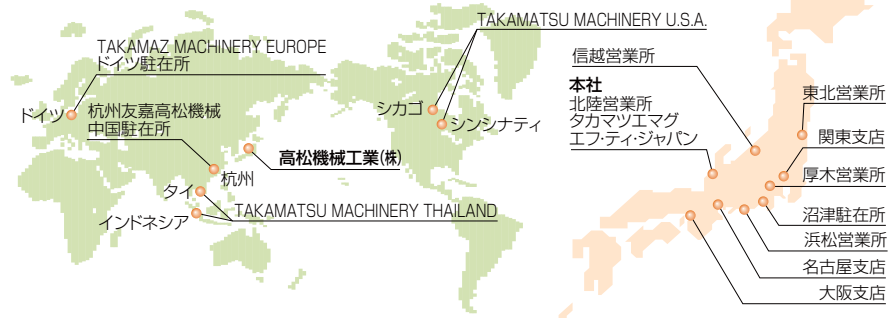
会社概要

商号	高松機械工業株式会社
設立	昭和36年7月
資本金	18億3,539万円
本社	石川県白山市旭丘1丁目8番地
従業員数	396名
子会社および関連会社	TAKAMATSU MACHINERY U.S.A., INC. TAKAMATSU MACHINERY (THAILAND) CO., LTD. TAKAMAZ MACHINERY EUROPE GmbH 株式会社タカマツエマグ 杭州友嘉高松機械有限公司 株式会社エフ・ティ・ジャパン
ホームページアドレス	http://www.takamaz.co.jp

役員

代表取締役社長	高松 喜与志
常務取締役 (生産本部担当)	田 充夫
常務取締役 (営業本部担当)	前 西与平
常務取締役 (管理本部担当)	中 溝口清
取締役 (営業本部副本部長兼国内営業部長)	川 上友安
取締役 (生産本部副本部長兼製造部長)	宮 川 隆
取締役 (営業本部海外営業部長)	徳 野 穰
取締役 (生産本部生産管理部長)	取 締 役 (社外)
取締役 (管理本部総務人事部長)	高 松 宗一郎
取締役 (社外)	中 西 祐一
常勤監査役 (社外)	砂 崎 友和
常勤監査役	池 上 佳信
監査役 (社外)	鍛 治 敏弘

ネットワークとサービス体制

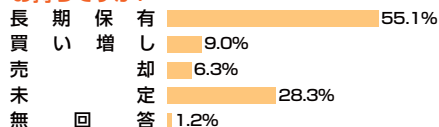


アンケートのご報告

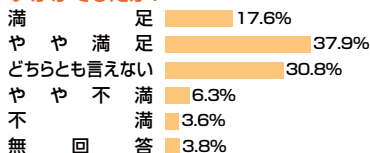
第49期株主通信に同封しました「株主アンケート」におきましては、たくさんのご回答をいただき誠にありがとうございました。アンケートの集計が完了しましたので、その一部ですがご報告させていただきます。

アンケート回答数 874名
アンケート返信率 29.1%

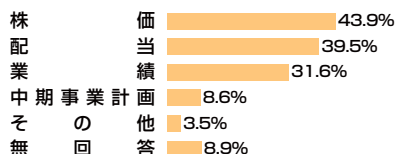
●当社の株式について今後どのような方針をお持ちですか？



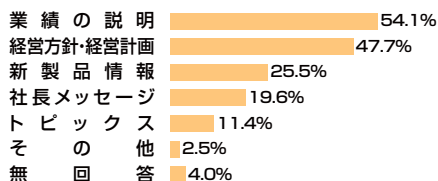
●第49期株主通信の内容はいかがでしたか？



【上記方針を決定するための判断材料はなんですか？(複数回答可)】



●今後、株主通信に期待する情報はなんですか？(複数回答可)



364名の皆様よりいただいたご意見・ご質問の中からその一部をご紹介します。貴重なご意見をいただきありがとうございました。

- 厳しい状況ですが、高い技術でコツコツ誠実にグローバルに活躍されることを期待します。(60代女性)
- 中国および東アジアの進出を加速化しなければ成長しないと思います。(80代男性)
- 黒字化、復配、今期は必ず達成して下さい。(30代男性)
- 活動内容をもっと詳しく教えて下さい。(30代男性)

株主の皆様からいただいた貴重なご意見を真摯に受け止め、企業価値の向上およびIR活動の拡充に努めてまいります。今後とも更なるご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



本社工場(工作機械事業)



第2工場(コレットチャック生産)



第3工場(自動車部品加工)



開発センター(IT関連製造装置)

製品のご紹介



NEW XL-100

これまで多くのユーザに永く愛されてきた主力機種をフルモデルチェンジさせました。すでに発売済みの「XC-100」とこの「XL-100」で6インチ旋盤を利用するすべてのユーザを満足させます。



NEW GSL-15

新興国市場の開拓をはかるために開発したローコストマシンです。ニーズに合わせてシンプルな機能にするとともに、部品点数の削減などで新興国でお求めやすい価格にてご提供します。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	6月中		
株主確定基準日	(1) 定時株主総会	3月31日	
	(2) 期末配当金	3月31日	
	(3) 中間配当金	9月30日	
	(4) その他必要ある時	あらかじめ公告して定めた日	

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人 および 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
特別口座の口座管理機関 住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日綱町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-176-417
(インターネットホームページURL) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用していなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法 当社ホームページに掲載 <http://www.takamaz.co.jp>

上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部

お問い合わせ先 管理本部 企画経理部
TEL 076-274-1411(直通) FAX 076-274-1418



TAKAMAZ
高松機械工業株式会社

ホームページ

<http://www.takamaz.co.jp>

R100

このパンフレットは再生紙を使用しています。

